

## 一般演題抄録

### I-1 大動脈弁異所性石灰化に対する黄蓮解毒湯の抑制作用

○劉旭<sup>1</sup>、于在強<sup>1</sup>、瀬谷和彦<sup>2</sup>、楊薇<sup>1</sup>、大徳和之<sup>1</sup>、  
今泉忠淳<sup>2</sup>、古川賢一<sup>3</sup>、福田幾夫<sup>1</sup>  
(弘前大・院医・胸部心臓血管外科学<sup>1</sup> 脳血管病態学<sup>2</sup> 病態薬理学<sup>3</sup>)

大動脈弁狭窄症 (AS) は、石灰化で弁の開閉が制限される病態である。重症の場合は心不全に至るため、大動脈弁置換術 (AVR) の適応になる。しかし、石灰化の進行を抑制する有効な薬物治療は、まだない。そこで、インフォームドコンセントを得た AS 患者の大動脈弁から単離した HAVICs を用い、漢方製剤が HAVICs 石灰化に与える影響を検討した。HAVICs は TNF- $\alpha$  (30 ng/ml) や高リン酸 (3.2mM) により、著しい石灰化を認めた。このうち、TNF- $\alpha$  誘発性石灰化モデルを用い、19 種類の漢方薬について検討した。その結果、黄蓮解毒湯が TNF- $\alpha$  誘発性石灰化を濃度依存性に有意に抑制することを確認した。また、30  $\mu$ g/ml 以下の濃度で細胞毒性を認めなかった。黄蓮解毒湯は TNF- $\alpha$  による BMP2 遺伝子発現の亢進および ALP 活性の上昇を有意に抑制した。以上の結果は、黄蓮解毒湯が弁異所性石灰化の薬物治療候補のひとつとなる可能性を示唆している。黄蓮解毒湯はオウゴン、サンシシ、オウレンとオウバクの4種の生薬を含んでおり、高血圧や動悸などに使用されている。今後は、活性の本体を明らかにするため、これらの生薬を用いてさらに検討を進めていく。